



感染管理

脳卒中リハビリテーション看護

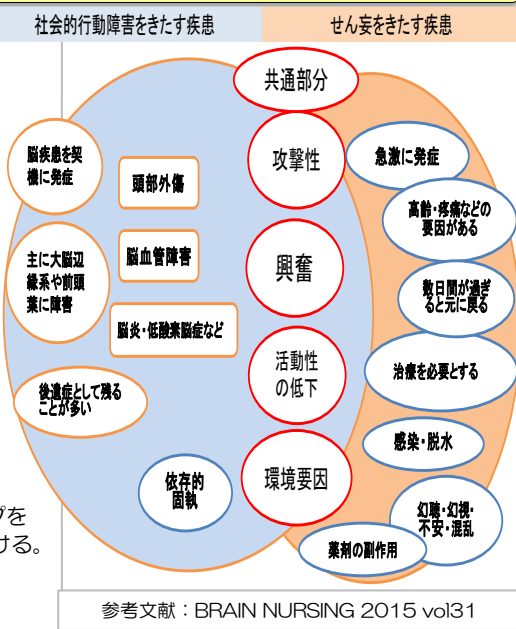
病院感染防止対策マニュアルを一部改訂しました

血液体液汚染時の対応についてフローチャートを作成しました。確認をお願いします。
 普段から針刺し・切創事故を起こさないように細心の注意を払っていることと思いますがもしもの時には、フローチャートを活用し早急に対応を開始できるようにしてください。

ご自分の抗体価を知っていますか？

H27年度から正規職員の医療従事者と入所施設の職員は、HBV、流行性ウイルス疾患（麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎）の抗体価を検査しています。検査を受けた方は結果はすでにお伝えしていますが、覚えていらっしゃいますか？
 例えば、針刺し事故にあった場合、自分自身のHBs抗体の数値を知っていれば、どんな処置を始めればよいのかがすぐにわかります。また、患者さんが流行性ウイルス疾患を発症したときに、自分自身に抗体があることがわかっている場合は、安心して患者さんのケアを行うことができます。抗体がない場合は、ワクチンを接種することによって流行に備えることができます。もし、ご自分の抗体価がわからない場合は、看護部（看護職員のみ）、職員担当がデータの把握をしていますので、確認してください。

入院初期は**社会的行動障害**と**せん妄**が合併していることがあります！違いを理解し対応をしましょう。
 <それぞれの特徴>
社会的行動障害：意欲、感情のコントロールの低下 対人関係の障害 依存的 固執
せん妄：注意障害を伴った意識のくもり(意識障害)を基盤とした症状
 <社会的行動障害の関わり>①興奮の要因を分析し判別する
 ②ケアの方向性を明確にする(持続性)
 ③関わりかたのヒント
 「ささいなことで興奮したり怒鳴る」→話題を変える。その場を離れる。
 「待てない」→我慢できそうな時間の範囲でくさる。
 「相手の気持ちを察することができない」→言動、態度が不適切な場合は話を戻す、その場の空気を変える。
 <せん妄の関わり>①興奮の要因を分析する。
 ②ケアの方向性を明確にする(一過性)
 上記2つの症状に対し、**ユマニチュードの対応も効果的!**触れる：スキンシップを図る。見る：目の高さを同じにし見つめる。話しかける：前向きな言葉で話かける。など行ってみることもお勧めします！



皮膚・排泄ケア

計画評価日・状態変化時に褥瘡発生の危険因子のテンプレート(看護部→褥瘡にあり)を活用し評価しましょう!!

入院後は活動が拡大し、褥瘡発生の要因が変化します。定期的なリスクアセスメント・計画の変更が必要です。

褥瘡の要因は様々であり、トータルケアが必要です！危険因子評価でリスクアセスメントをすることで、スタッフが同じ視点で要因をアセスメントすることができます。

危険因子	日常生活自立度 J(1,2) A(1,2) B(1,2) C(1,2)	基本的動作能力(ベッド上 自己体位変換) (イス上 自己姿勢の保持、除圧)	できる	できない
病的骨突出			なし	あり
関節拘縮			なし	あり
栄養状態の低下			なし	あり
皮膚の湿潤(多汗、尿失禁、便失禁)			なし	あり
浮腫(局所以外の部位)			なし	あり

留意する項目	計画の内容
圧迫、ズレ、摩擦の排除	2~4時間ごとに体の向きを変える、あるいは、圧のかかっている場所を変えるなど介助します。 ベッド上時あるいはダウン後は、背抜き・足抜きを行い、しわを予防します。 体圧を測定し、適切な体圧分散寝具(マットレス)を選択します。
スキンケア	15分に1回は姿勢を変更し、同じ部位への圧迫を防ぎます。姿勢をよく座ることを心がけます。 トイレやベッドへの移乗の際は、外傷や皮膚のズレに注意します。必要に応じてクッションを検討します。
スキンケア(処置方法を含め)	排泄物により、皮膚の湿潤や皮膚障害が生じやすいため、撥水性のクリームで予防します。 褥瘡周囲の皮膚を十分に泡立てた弱酸性洗剤で優しく洗浄します。必要であれば、被膜剤を使用します。
栄養状態改善	食事摂取量、体重、検査データを見て、栄養サポートチームと連携し食事内容を検討します。
リハビリテーション	褥瘡が重度であり、車いすの乗車制限やベッド上での体の向き制限が必要です。



摂食嚥下障害看護

ボタン型の胃ろうカテーテルから半固形状流動食を注入する際に必要な「**ポラスチューブ**」の紹介です。

ボタン型の胃ろうカテーテルは、用途に応じた接続チューブを用いて使用する必要があります。下の写真を参照して下さい。
 ④液体注入用チューブです。接続部がL字なので、半固形状流動食の注入に使用すると抵抗が増えて注入が困難になります。また過剰な圧が接続部に掛かるためリークや破損の原因になります。
 ⑤これが**ポラスチューブ**です。接続部がストレートなので注入圧がダイレクトに胃ろうカテーテルに伝わり、高粘度の半固形状流動食でも注入が容易になります。
 ⑥減圧用チューブです。ボタン型の胃ろうカテーテルは逆流防止弁が内蔵されているので、逆流確認や減圧には接続部が逆流防止弁より深く入る減圧用チューブが必要です。

ボタン型の胃ろうカテーテルの添付文書にも、半固形状流動食注入時のポラスチューブ使用の推奨が記載されています。そのため「**ボタン型の胃ろうカテーテルから半固形状流動食を注入する際は、必ずポラスチューブを使用すること**」をお願いします。

※ポラスチューブは、その胃ろうカテーテルに適合する同じメーカーのチューブを使用する必要があります。他社のチューブは適合しません。そのためチューブの種類が多岐にわたり、予め中材物品として準備しておくようなことができません。
 ボタン型の胃ろうカテーテルから半固形状流動食を注入することになったら病棟の消耗品費などから購入して準備して下さい。価格は二千円前後です。

